

知的障害特別支援学校におけるICTを効果的に活用した授業づくりの組織的な推進

【背景と目的】

全国的に知的障害特別支援学校についてはデジタル教科書の整備すら進んでおらず、児童生徒の実態に応じたICTの活用事例や教材の整備・共有が進んでいるとは言い難い現状がある。

知的障害特別支援学校においてICTを効果的に活用した授業づくりを組織的に進めることができるのか、またそのために必要な要因は何かを明らかにする。

【研究の内容と結果】

教員がICTを効果的に活用した授業づくりに主体的に取り組む状態

教員一人ひとりがICTを活用する目的を判断しながら、ICTが必要な場面、方法で活用する授業づくりを自ら行い、実践している状態

このような状態になる組織的環境を形成することができるのかを実践し検証した。

「4つの学びの場」を設定

- ① 仲間から学ぶ「コミュニティ」
- ② 情報で学ぶ「ナレッジマネジメントシステム」
- ③ 研修で学ぶ
- ④ 経験して学ぶ「パフォーマンスサポートシステム」

鈴木 克明(2015)研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房 を援用

- 教員の主体性を尊重し、教員の授業改善を支援することで教員の実践や成長に貢献すること。
- 単にICTの技術に関する知識を学ぶだけではなく、教員が教育計画や授業のプロセスにICTなどの技術を統合する際に、その意味や意義を感じ取ることができる判断ができるような場にしていくこと。
- 限られた時間で教員が無理なく取り組める場とすること。

① 仲間から学ぶ「コミュニティ」

ウェブ上の掲示板機能を使った実践事例共有の場で共有した件数

2023年11月20日時点

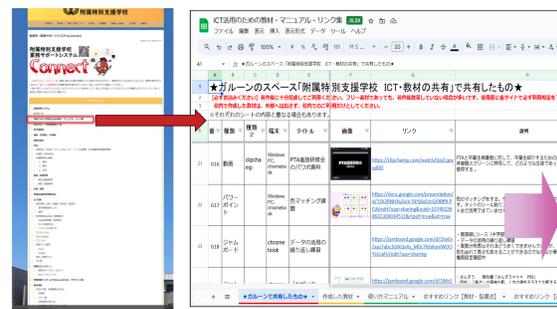
掲示板投稿件数		共有事例の件数		教科別事例の件数		教材の種類	
全年度	11	小学校	27	算数	17	Googleアプリ・iOSアプリ	1
算数・数学	5	中学校	12	算数・数学	12	NHK for school	1
国語	1	合計	55	理科	7	Webサイト	2
社会	0			理科	0	YouTube	15
音楽	5			音楽	0	カードゲーム	1
図工・美術	2			図工・美術	7	ジャムボード	5
運動	2			運動	4	パワーポイントで作成した教材	7
特別活動	2			特別活動	5	端末で作成した教材	3
外国語	0			外国語	0	教材パック	3
総合	0			総合	7	動画教材	1
情報	3			保健体育	2	動画授業	1
保健体育	0			保健体育	1	合計	53
防災学習	2			防災学習	4		
家庭	1			家庭	0		
その他	3			その他	5		
ふぶき	16						
生徒支援	4						
合計	58			合計	77		

新たな教材を知り、実際の授業に活用し、それをまた掲示板で共有するという循環もみられ、ICTを活用するきっかけとなったりモチベーションを高めたりすることにつながっていた。

② 情報で学ぶ「ナレッジマネジメントシステム」

ウェブ上の教員向けマニュアル集やリンク集の充実

①のウェブ上の掲示板で共有された実践事例や便利なサイト、教材等の情報を一覧化し、教員向けウェブから閲覧できるようにした。



「探したくなった時にいつでも見れるから助かる」等、時間を効率的に使え、ICTを活用する際の安心感につながっていた。

④ 経験して学ぶ「パフォーマンスサポートシステム」

教員のニーズに基づき、ICTを活用する授業において困ったときや、初めての方法で取り組む時に個別支援を行った。

教員同士の学び合いが、他の「学びの場」がきっかけとなって発生しているケースが確認できた。

③ 研修で学ぶ

具体的な経験を積み重ねる

研修の実施内容 (2023年)

時期	名称	時間	設定	対象者	講師	目的	内容
3月	伝達講習	15分		全教員	筆者	質問紙調査の結果の共有 ICTを活用する目的についての共有	事例校での質問紙調査の結果報告 筆者が整理した、知的障害特別支援学校におけるICT活用の目的について ICT活用の目的とついて筆者が行った授業実践の報告
4月	新転任者向け情報研修	30分		新転任者	情報管理部長	事例校の情報管理の基本を知る	事例校での業務に必要なネットワーク、アプリケーション等を入れるようにする。
5月	プチ情報研修	10分 +希望者		全教員	筆者	今後の研修でGoogle Classroomを活用できるようにする。 電子黒板をタッチ操作で活用できるようにする。	情報管理部長とICT支援員の役割について 電子黒板とクラウドの接続方法について Google Classroomの設定を行う。
6月	プチ情報研修	10分		全教員	筆者	Google Classroomを慣れさせる。 Google Jamboardを使った教材を児童生徒目線で作成し、実際に授業で使用する。	Google Classroomを使う。 Google Jamboardを使った教材を使ってみる。 Google Jamboardの教材作成、動画制作、編集のスキルを学ぶ。 研修後、教材案や、実際に授業で使った事例を掲示板で共有する。
7月	※研修の実施はなし					質問紙調査の実施(中間評価とニーズ調査)	
8月	情報研修	1時間		校内研修会	全教員	ICT活用の目的を判断して授業にICTを活用できるようにする。 ニーズ調査でニーズが多かった、動画制作ソフトウェアipichangを使って動画を作成する。 Google Jamboardの教材作成、動画制作、編集のスキルを学ぶ。 授業でのICT活用案を作成し、実際に活用することができる。	ICT活用目的 Google Jamboardで教材を作る。 動画制作ソフトウェアipichangを使って動画を作成する。 教材案をワークシートに書く(記入する) ⇒研修後、教材案や、実際に授業で使った事例を掲示板で共有する。
10月	プチ情報研修	10分		全教員	筆者	Google Classroomを活用できるようにする。 ICT活用のための教材・マニュアル・リンク集を開発し活用できるようにする。	Google Classroomの活用方法を知る。 ICT活用のための教材・マニュアル・リンク集に教員向けウェブから閲覧する。
11月	プチ情報研修	10分		全教員	筆者	授業での自身のICT活用を振り返り、今後の活用について考える。	自分自身がICTを活用する目的をどのように考えながら、授業でICTを活用しているのかを振り返り、今後のICT活用に生かすためのワークの実施。

毎月開催される職員会議直後の時間を使い、毎月1回のペースで10分程度の「プチ情報研修」を実施。

- ・8月に1時間の「情報研修」を実施。
- ⇒具体的な場面や目的を考えて授業案を作成
- ・11月の「プチ情報研修」
- ⇒自分自身のICT活用について振り返るワーク

それぞれの教員が様々な授業の場面でICTを活用したことについて、その位置づけを考えながら振り返っていた。

研修を負担が少ない短い時間設定で繰り返し実施する形式としたことは、教員が効果的にICTを授業で活用しようとするきっかけを増やすことや、意識を持ち続けることにつながった。

〈11月のワーク〉 自分自身のICT活用について振り返り

自分自身が行ったICTを活用した授業を1つだけ選んで回答。



〈質問紙調査 2023年11月〉



【考察】

教員が児童生徒の「主体的な学び」を大切にして「興味喚起」や「モチベーション喚起」を意識し、「授業の効率化」を図りながら発達段階や目的に応じたICT活用した授業を行うことで、「理解促進」や「個別最適な学び」を実現しようとしている様子が確認された。

このことから「4つの学びの場」が組み合わせることによって一過性の学びで終わるのではなく、継続して学び続けることを促進し、教員の意識の変化や行動変容につながったといえるのではないだろうか。